

1 対象年次、単位数、使用教科書

2年次以上、3単位
 ビジネス経済応用 伊藤 光晴 赤岡 功 共著 (実教出版)

2 科目の目標

企業の経営、経済活動に関する基礎的・基本的な知識を習得させ、国際社会の一員としての心構えを身につけさせるとともに、国際的なビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。

3 評価規準 (何を評価するか)

レポート (提出時期)
 スクーリング出席時間数
 試験

4 評価基準 (どんな方法で評価するか)

レポート	・上記レポート目標の基本的な部分のみ理解している場合は、理解度に応じて評価2～3、発展的部分まで理解できていると判断する場合は評価4～5とする。基本的な部分が理解できていない場合は再提出とする。
------	---

5 試験範囲と試験による評価基準

①R 1～3の範囲で7月試験を、R 4～6の範囲で10月試験を、R 7～9の範囲で1月試験を実施。試験内容は基本的な部分から約50%、発展的な部分から約50%を出題し、**評価は30～40点を2、41～70点を3、71～80点を4、81点以上を5とする。なお、29点以下については再試験とする。**

②再試験を繰り返してもなお基準点に達しない場合は1とし、単位認定はしない。

6 スクーリングの目標・内容・計画

スクーリングに取り組む姿勢を考慮し、学年末評価の参考資料とする。
 0～5時間は単位認定はしない。

R回数	項目	内容	教科書	標準提出時期
1	第1章 サービス経済化とサービス産業 1節 産業構造の変化と労働 2節 サービス産業の現状	わが国の産業構造が移り変わった経緯を、労働市場の変化、消費構造の変化を通して理解する。	p5～28	4月下
2	第2章 経済の国際化 1節 企業の国際化・グローバル化 2節 国際化の進展と国際収支	企業は成長を求めて国際的なビジネス活動を展開し、その活動が国際化からグローバル化へ進展していることを理解する。	p29～45	5月下
3	3節 貿易の利益と課題 4節 国際資本移動	貿易が国民生活の維持および産業発展に必要不可欠であり、比較優位の原理に基づいて行われることを理解する。	p46～63	6月下
4	5節 外国為替 第3章 金融市場と資本市場 1節 金融取引の発達	金融取引の概念およびそのリスクについて理解する。	p64～81	7月下
5	2節 貯蓄と投資の動向 3節 金融市場と資本市場の役割 4節 金融市場と資本市場の課題	直接金融と間接金融について、それぞれ金融機関との関わりを通して理解する。	p82～100	8月下
6	第4章 企業経営 1節 企業経営の特色 2節 企業経営と外部環境 1 少子高齢化と人口減少への対応 2 国民生活の変化への対応 3 国際化の進展と規制緩和への対応	日本的経営の特色について、基本的な知識や概念を通して考察する。	p101～122	9月下
7	4 情報社会への対応 3節 企業の社会的責任 4節 企業の海外進出と経営	企業の社会的責任について、その内容を理解するとともに、これからの企業経営のあり方について考える。	p123～136	10月下
8	4節 企業の海外進出と経営 第5章 ビジネスの創造と地域産業の振興 1節 起業の手続き	起業の意義と経営理念の重要性、また、企業に対する支援制度について理解する。	p137～155	11月下
9	2節 新たなビジネスの展開 3節 地域ビジネス事情	わが国における新たなビジネスの現状について、具体的な事例を通して理解する。	p156～181	12月中

